

KAWASAKI ART NEWS

2016.11

Vol.245



THE KAWASAKI FOUNDATION

第22回 KAWASAKI しんゆり映画祭2016開催!

みんな

「市民がつくる映画のお祭り」

11/5(土)6(日)、11/8(火)→13(日)

川崎市アートセンター

CONTENTS [目次]

02 特集

KAWASAKI
しんゆり映画祭

04 音楽

ミュージア川崎
シンフォニーホール

07 歴史・文化

東海道かわさき宿交流館

09 伝統芸能

ラゾーナ川崎プラザソル
川崎能楽堂

10 美術

市内ギャラリー情報

13 演劇

アルテリオ小劇場

14 映画

アルテリオ映像館

16 演芸

新百合トウェンティワンホール



みんな 「市民がつくる映画のお祭り」 KAWASAKIしんゆり映画祭



インタビュー:千葉茂樹さん(映画祭代表)

今年で22回目を迎える「KAWASAKIしんゆり映画祭」が、11月5日(土)から11月13日(日)まで川崎市アートセンターで開催されます。

上映作品は市民スタッフが選定。監督・俳優によるトークイベントや、ミニコンサートなどが行われるほか、障がいを持つ方のための「バリアフリーシアター」や、保育サービス付上映、中学生が映画制作から上映までを行う「ジュニア映画制作ワークショップ」、活弁付き映画の上映など、映画ファンだけでなく、だれもが楽しめる映画祭です。代表を務める千葉茂樹監督に、この映画祭の魅力についてお話をうかがいました。



ジュニア映画制作ワークショップの様子



受付でお客様を温かくお出迎えする市民スタッフ

文化は自分たちでつくるもの

—— しんゆり映画祭の成り立ちについてお聞かせください。

しんゆり映画祭は、1995年に川崎市の「芸術のまち構想」の一環としてスタートしました。当時、新百合ヶ丘の駅前は映画館もなく、広大な空き地が残る地域でした。

「ここは文化果つところ。文化も何も無い新百合ヶ丘をどう発展させるんだ」と思っていた僕らを、日本映画学校(現・日本映画大学)の校長だった故・今村昌平監督が「文化は自分たちでつくるものだ!」と、叱咤激励しました。

今村監督の弟子だった故・武重邦夫さん(映画監督/しんゆり映画祭初代実行委員長)が中心となって、3日間で6本の映画を上映するところからのスタートでした。



「映画祭について熱く語る千葉代表」

2年目にボランティアを募集してみたら、市民が大勢集まり、たくさんのアイデアが出ました。「作品を自分たちで選びたい」「パンフレットを作りたい」「ゲストはあの人を呼びたい」「会場を飾りつけてお客様をお迎えしたい」など、これらを全て実行していくことで今につながる映画祭が形づくられてゆきました。

千葉 茂樹[CHIBA SHIGEKI] 映画監督・脚本家/日本映画大学特任教授
市民グループ「地球家族の会」代表。劇映画『一粒の麦』(1958)、『こころの山脈』(1965)ほか脚本多数。ドキュメンタリー映画『マザー・テレサとその世界』(1979)でキネマ旬報文化映画作品賞など受賞多数。『豪日に架ける=愛の鉄道』(1999)、文化映画『シネリテラシー映画をつくる子どもたち=オーストラリアの挑戦=』(2006)、『マザー・テレサと生きる』(2010)。第29回毎日福祉顕彰受賞(1999)、2006年豪日交流基金賞を受賞(2007)。第26回カトリック国際映画祭 福音的メディア特別賞(2011)。

市民手づくりの映画祭

—— 運営は市民ボランティアが中心となっているそうですね。

しんゆり映画祭の最大の特徴とっていいかもしれません。事務局は二人だけで、ボランティアが主体となって企画・運営を行い、運営委員もすべてボランティアスタッフです。

上映プログラム選定、広報宣伝、バリアフリー上映、ジュニア映画制作、野外映画上映会、総務等、大きく分けて六つのセクションがありますが、例えば広報だけでもHP担当、SNS担当、地域への広報物配布担当などと細分化されていて、機能的に動いています。

今年のボランティア登録数は60名ですが、バックに控えている人も含めると総勢280名に上ります。

—— どのような年齢層の方がいらっしゃるのですか?

一番主力になっているのは20代から40代です。働き盛りの世代が帰宅後や休日などを駆使して動いてくれています。加えて、映画祭初期のころから子育てをしながら参加してきて現在は5~60代になった主婦や会社員、経験豊富な定年退職者たちが、映画祭のキャリア組としてアドバイスをくれながら、若い世代とタッグを組んでやっています。

映画好き、お祭り好き、地元好き、友人づくり、社会貢献など様々な理由で、小田急線沿線のみならず、市外や都内からも多くの方が新百合ヶ丘に集まってきてくれています。

—— 上映プログラムはどのようにして決めるのですか?

市民たちが集まって話し合いを重ねていくのが、しんゆり映画祭の基本的なスタイルです。毎年、プログラム委員たちが何回も集まって意見を出し尽くすまで話し合いをし、上映作品を決めてきました。

今年は決め方を少し変え、プログラム委員以外のメンバーも全員が企画発案できるようにし、企画提出者一人一人がプレゼンテーションをして、スタッフ内で投票を行いました。その結果、今年は日本映画でかけたいものが多かったのも、若手の監督や俳優たちに注目するかたちで、「躍動!日本映画!」をテーマに掲げました。

誰にでも映画を楽しんでもらいたい

—— バリアフリーシアターも全て市民スタッフの手で作っているのですか？

映画祭が始まって2年後、地元在住で途中で失明された方から、「また劇場で映画を楽しみたい」と一本の電話があったことがきっかけで始まったバリアフリーシアター制作も、今年で20周年を迎えます。

最初は本当に右も左もわからない状態だったので、映画学校の先生たちが技術的な方法を調査するところから始めたんですよ。音声ガイド台本づくりや朗読は、始めは地元音訳グループが担い、やがて市民スタッフの手に委ねられました。自分たちで作ることで勉強になりますし、利用する方たちの立場に立てます。

—— バリアフリーシアターの制作についてお聞かせください。

バリアフリー上映では、既存の映画に日本語字幕と副音声ガイドを付けます。

邦画の副音声ガイドを例に挙げますと、まず台本を取り寄せ、ト書きを元にして風景・役者の動き・衣装など台詞以外の視覚情報の説明を文字に書き起こします。監督や制作者の意図を損なうことなく、登場人物の感情を勝手に解釈しないように注意しながら、台詞と台詞の間のわずかな隙間に入るように短い言葉でガイドをつけていきます。

台本ができたら、映像をスタッフ全員で見ながら、1シーンずつ言葉を当てはめてみて、表現が適切か検討します。「今のはこの表現じゃない」などと、制作チームで話し合いながら、週末に何度も集まって、推敲を重ねます。洋画は台詞の吹き替え作業もあり、プロの声優だけでなく、市民スタッフも声優として参加します。こうしてでき上がった音声ガイドは、劇場でFMラジオをお貸しし、利用者の方々がそれを耳に当てて聞けるようになっています。障害の有無に関係なく、劇場でみんなと一緒に映画を楽しむことができます。

副音声台本を作るところから始めるので大変な作業ですが、鑑賞後に利用者の方を駅までお送りするときに感想をお聞きできることが、スタッフにとって最もうれしく、楽しい時間です。



会場で無料貸し出しする副音声イヤホンガイド 副音声台本起こしをする市民スタッフたち

映画祭だからこそそのラインナップ

—— 今年の見どころについて教えてください。

今年は、見どころの一つとして俳優の菅田将暉さんをピックアップし、代表作と最新作からとっておきの3作品を上映します。

また、映画祭だからこそ思い切って見てほしいと、「R180～見逃すのはもったいない！長尺日本映画特集～」と題して、上映時間が3時間以上の作品を2本上映します。サイレント映画は世界三大喜劇王のチャップリン、キートン、ロイドを3本立てで活弁付きで上映します。熊本地震復興支援として、「がまだぜ！熊本応援上映」も企画しています。ジュニア映画制作ワークショップで、中学生がひと夏をかけてつくった『学校は二度死ぬ』もご期待ください。ほかにも若手監督の特集、今村昌平監督の没後10年特集など、盛りだくさんです。そして、私の作品『マザー・テレサと生きる』を上映します。

—— 千葉監督はマザー・テレサに日本人として初めて取材をしてドキュメンタリー映画をつくり、日本中に彼女の名を広めましたね。

とにかく彼女がやったことは素晴らしいし、皆が真似したいと思っています。今年の9月に、マザー・テレサはカトリック教会の最高位「聖人」の列に加えられました。死後100年も経たずに聖人になった人は今だかつていないそうです。私もバチカンで行われた「列聖式」に行きました。

この記念すべき年に、マザーと仲間たちの清貧な日々と、多岐に

わたる活動をご覧いただきたいと思います。

市民にとって必要なサードプレイス

—— 地域の中でのしんゆり映画祭の役割について、どのようにお考えですか。

映画祭をとおして市民が集まり、自己表現ができる場でありたいと思っています。家庭でもなく、学校や職場でもない、サードプレイスとしての役割が大きく、それがこうして22年目を迎えて今なお、市民主体で継続できている大きな理由だと思います。こういう場を市民が無意識に求めているのでしょう。

映画はそこに身を置くだけで、全く知らなかった世界や多様な価値観に出会える不思議な力を持っています。そして、映画祭に集まるスタッフたちも、色々な年代、それぞれが違ったキャリア、得意分野を持っています。そういう仲間と交流できるのも映画祭の魅力ですね。今まで映画を見る側だった人が、見せる側になる。ワークショップに参加すれば作る側になる。文化の受け手と担い手の往来ができる機関になることで、映画界はもちろん、文化全体が活性化していくといいなという大きな野望もあります。

今後は財政面の課題もあります。活動支援に協力していただきやすいよう、昨年クラウドファンディングを始めました。スタッフが一から全て考えてシステムを構築し、HPで寄付を受け付けています。地域に根付く映画祭を継続していくため、観客として、スタッフとして、様々な形で参加していただければうれしいです。

—— 最後に、観客へのメッセージをお願いします。

しんゆり映画祭は、全国の大きな劇場で上映されるような有名作品が多くないので、マニアックな映画祭なのかと思われる方もいますが、お祭りという非日常だからこそ、新しい出会いを求めて見に来ていただきたいですね。オリンピックと一緒に、映画を楽しむだけでなく、映画を媒体にしてそこから生きる勇気をつかんでもらいたいと思います。

第22回KAWASAKIしんゆり映画祭2016

2016年11月5日(土)・6日(日)、8日(火)～13日(日)

◆上映作品(一部)

【特集2016年の顔 菅田将暉】『セトウツミ』『ディストーション・ベイビーズ』『共喰い』

【佐藤忠男が語る】『台湾新電影時代』『日本映画学校、日本映画大学から巣立った才能』

【水際の魚】『good-bye』

【スクリーンで観たい永遠の名作】

『ニュー・シネマ・パラダイス』

【活弁上映 世界三大喜劇王】『ロイドの巨人征服』

『チャップリンの番頭』『キートンの警官騒動』

【新百合ヶ丘ゆかりの映画監督 今村昌平没後10年】

『カンゾー先生』『にっぽん昆虫記』

【ジュニア映画制作ワークショップ】『学校は二度死ぬ』

【彼女たちの“リベンジ”】

『エール!』(バリアフリー日本語字幕付き)

『百円の恋』(副音声イヤホンガイド付き)

『はじまりのうた』(保育付き)

会場：川崎市アートセンター

(神奈川県川崎市 麻生区万福寺6-7-1)

小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分

料金：前売り券 1000円 / 当日券 1200円

※学生、障害者割引あり。※プログラムにより一部料金が異なります。

◆その他の上映作品、詳細、ゲストなどは公式HPをご覧ください。

お問い合わせ・バリアフリーシアター申込先：

NPO法人KAWASAKIアーツ・映画祭事務局

TEL: 044-953-7652

Mail: ticket@kawasakiarts.org

URL: http://www.siff.jp/



ミュージザ川崎シンフォニーホールのお薦め公演

お申込み・お問合せ◎ミュージザ川崎シンフォニーホール ☎044-520-0200(10:00~18:00)

かわさきジャズ2016 11/11 Fri.~11/20 Sun.

スーパーセッション at ミューザ川崎シンフォニーホール
実力派ミュージシャンたちによるスペシャルな3days!



小曾根 真 featuring No Name Horses

11月18日(金) 19:00開演(18:00開場)

S席8,000円 A席7,000円 B席6,000円

日本を代表するTOPミュージシャンが集結した人気絶頂のビッグバンドが、いよいよミュージザに登場! 変幻自在のプラス、縦横無尽に駆け巡る小曾根のピアノに注目。

メンバー◎小曾根 真(p)、エリック宮城(tp,flugel)、木幡光邦(tp,flugel)、奥村 晶(tp,flugel)、岡崎好朗(tp,flugel)、中川英二郎(tb)、半田信英(tb)、山城純子(tb)、近藤和彦(sax,fl)、池田 篤(sax,fl)、三木俊雄(sax)、岡崎正典(sax,cl)、岩持芳宏(sax,cl)、中村健吾(bass)、高橋信之介(ds)



©Akira Muto

プラチナ・ジャズ・オーケストラ presented by ラスマス・フェイバー

11月19日(土) 17:00開演(16:00開場)

S席7,000円 A席6,000円 B席5,000円

スウェーデン生まれの「美メロ・プロデューサー」、ラスマス・フェイバー率いる「プラチナ・ジャズ・オーケストラ」。ジャズ/ポップス・ファンからアニメ・ファンまでも虜にし、来日のたびにファンを増やしている彼らが、日本のアニメソングの名曲をジャズでおしゃれにカバーする、大人気の「ジャズmeetsアニソン・プロジェクト」を披露します。ヨーロピアン・ジャズとアニソン・スタンダードが出会う至福の夕べをご堪能あれ。



グランド・フィナーレ ジャズtravels ワールド

11月20日(日) 17:00開演(16:00開場、20:00終演予定) S席7,000円 A席6,000円 B席5,000円

ジャズ界の巨匠・山下洋輔と、各方面で活躍する人気ヴァイオリニスト・大谷康子による驚異のドリーム・デュオが満を持してミュージザに登場! 南米タンゴを出発点に、「トルコ行進曲」「A列車で行こう」を経て日本まで、古今東西ジャズで世界を巡る3時間。

第1部 タンゴmeetsジャズ 出演:三浦一馬(bandoneon)、石田泰尚(vn)、黒木岩寿(bass)、大坪純平(gt)、BABBO(p)

第2部 クラシックmeetsジャズ 出演:ファジル・サイ(p)

第3部 ジャズmeetsジャパン 出演:山下洋輔(p)、大谷康子(vn)、スペシャルゲスト/大倉正之助(大鼓)



三浦一馬 ©ピクチャー・エンタテインメント



ファジル・サイ ©Marco Borggreve



山下洋輔 ©Jimmy&Dena Katz



大谷康子 ©尾形正茂



大倉正之助

休日の朝、オーケストラと過ごす、特別な1時間 東京交響楽団 モーツァルト・マチネ第27回

11月12日(土) 11:00開演(10:30開場)

全席指定3,500円 学生券(小学生~25歳以下)1,000円

モーツァルトがわずか8歳で作曲した交響曲第1番、その10年後に書き上げた第29番。そんな神童の成長を垣間見ることができるプログラムを、飯守泰次郎の指揮で。間に歌われるモテット「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」は、美しく華やかな一作。モーツァルトの若々しい音色を、森麻季の歌声でお楽しみください。

出演	プログラム
指揮: 飯守泰次郎	♪ 交響曲 第1番 変ホ長調 K.16
ソプラノ: 森 麻季	♪ モテット「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」へ長調 K.165(158a)
管弦楽: 東京交響楽団	♪ 交響曲 第29番 イ長調 K.201(186a)



飯守泰次郎 ©武藤 章



森 麻季 ©Yuji Hori

マリス・ヤンソンス指揮 バイエルン放送交響楽団

11月26日(土) 18:00開演(17:00開場)

S席30,000円 A席25,000円 B席、C席、D席売切れ

さまざまなオーケストラ・ランキングで世界のベスト10に選ばれているバイエルン放送響。その首席指揮者のマリス・ヤンソンスが「最愛のミューザでは是非!」と選んだプログラム。シンブルが魅力のハイドン、そして壮大なスケールを誇るアルプス交響曲。黄金時代を迎えたヤンソンスとバイエルン放送交響楽団による、精緻そして雄大な名演の予感!

出演	プログラム
指揮: マリス・ヤンソンス	ハイドン: 交響曲第100番「軍隊」
管弦楽: バイエルン放送交響楽団	R.シュトラウス: アルプス交響曲



マリス・ヤンソンス



バイエルン放送交響楽団 ©Markus Dlouhy

モーツァルト 歌劇 コジ・ファン・トゥツテ 全2幕 演奏会形式・原語上演(日本語字幕付き)

12月9日(金) 18:30開演(17:30開場) S席12,000円 A席9,000円 B席6,000円 C席4,000円

波乱万丈のドタバタ喜劇。恋人取りかえ大作戦が決行! その結末はいかに!? 夢のような豪華キャスティングで、ノット&東響が挑むあらたなステージ。客席と舞台が一体化する特別な体験をお楽しみください。

出演
指揮、ハンマーフルーゲル: ジョナサン・ノット(東京交響楽団音楽監督)
舞台監修、ドン・アルフォンソ: サー・トーマス・アレン
フィオルディリージ: ミア・パーション、ドラベッラ: マイテ・ポーモン、デスピーーナ: ヴァレンティナ・ファルカス
フェルランド: ショーン・マゼイ、グリエルモ: マルクス・ウェルバ
合唱: 新国立劇場合唱団、管弦楽: 東京交響楽団



ジョナサン・ノット



サー・トーマス・アレン
©Sussie Ahlburg



ミア・パーション ©Mina artistbilder



マイテ・ポーモン ©Kirsten Nijhof



ヴァレンティナ・ファルカス



ショーン・マゼイ ©Barbara Aumuller



マルクス・ウェルバ
©Francesco Luciani



photo by N. Ikegami

主催公演 3 木祝 14:00

ミュゼ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団

名曲全集 第122回 郷愁漂う傑作集!新時代を切り開く、女流音楽家たちによる

指揮:シモーネ・ヤング チェロ:アリサ・ワイラースタイン
ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 短調 作品104 B.191 / ブラームス:交響曲 第4番 短調 作品98

4 金 18:30

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー創立115周年記念演奏会

指揮:和田一樹 管弦楽:慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ 合唱:慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男性合唱団・女性合唱団 ほか
作詞・富田正文,作曲・信時潔:慶應義塾塾歌 / 作詞作曲・堀内敬三,編曲・石川嘉一:若き血 / ベートーヴェン:交響曲第9番 二短調 Op.125

お問合せ:慶應義塾ワグネル・ソサイエティー 070-5021-0105

5 土 13:30

横浜シティ・フィルハーモニック 第62回定期演奏会

指揮:小森康弘 ピアノ:小口真奈
ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 短調 / ラフマニノフ:交響曲第2番 短調

お問合せ:080-1044-6728(広報担当)

6 日 14:00

東芝フィルハーモニー管弦楽団 第41回定期演奏会

指揮:河地良智
ワーグナー:「タンホイザー」序曲 / ハイドン:交響曲第101番 二短調「時計」 / ドヴォルザーク:交響曲第9番 短調,作品95「新世界」より

お問合せ:演奏会実行委員長(森) 080-5537-8596

主催公演 12 土 11:00

モーツァルト・マチネ 第27回

指揮:飯守泰次郎 ソプラノ:森麻季 管弦楽:東京交響楽団
「オールモーツァルト・プログラム」交響曲第1番 変ホ長調 K.16 / モテット「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」(エクスルターテ・ユピター)へ長調 K.165(158a) / 交響曲第29番 イ長調 K.201(186a)

12 土 13:30

ミュゼ川崎ホリデーアフタヌーンコンサート2016後期

「麗しのヴァイオリン」川島成道 ヴァイオリン・リサイタル

ヴァイオリン:川島成道 ピアノ:山口研生
クライスラー:前奏曲とアレグロ / フランク:ヴァイオリン・ソナタ / サン＝サーンス:序奏とロンド・カプリチオーソ / パッハ(グノー編):アヴェ・マリア / モンティ:チャルダッシュ ほか

お問合せ:神奈川芸術協会 045-453-5080

13 日 14:00

プロースト交響楽団 第24回定期演奏会

指揮:新田ユリ
シベリウス:交響詩「フィンランディア」作品26 / シベリウス:レンミンカイネン組曲作品22から トゥオネラの白鳥、レンミンカイネンの帰郷 / ショスタコーヴィチ:交響曲第5番 二短調 作品47

お問合せ:080-1089-5660(吉村)

主催公演 16 水 12:10

東燃ゼネラルグループ Presents MUZAランチタイムコンサート11月

秋を彩るクラシック名作集 ~ヴァイオリンとヴィオラの二刀流&ピアノ~

ヴァイオリン&ヴィオラ:セルゲイ・マロフ ピアノ:岩崎洵奈
ラフマニノフ:チェロソナタ 短調 Op.19より第2,3楽章(ヴィオラで演奏) / ショパン:バラード第1番 短調 Op.23 / チャイコフスキー:ワルツ・スケルツォ Op.34

主催公演 16 水 19:30

東燃ゼネラルグループ Presents MUZANightコンサート60

秋の夜長に聴く、弦とピアノの名曲たち

ヴァイオリン&ヴィオラ:セルゲイ・マロフ ピアノ:岩崎洵奈
フランク:ヴァイオリン・ソナタ イ長調より / サン＝サーンス:ワルツ形式の練習曲 / イザイ:無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第4番 / クライスラー:愛の喜び、愛の悲しみ、中国の太鼓

主催公演 18 金 19:00

Kawasaki Jazz 2016

小曾根真 featuring No Name Horses

かわさきジャズ2016 スーパーセッション / 人気絶頂、日本を代表するビッグバンドがミュゼ初登場!変幻自在のブラス、縦横無尽に駆け巡る小曾根のピアノに注目!
ピアノ:小曾根真 NoNameHorses member: エリック宮城(tp,flugel), 木幡光邦(tp,flugel), 奥村晶(tp,flugel), 岡崎好朗(tp,flugel), 中川英二郎(tb), 半田信英(tb), 山城純子(tb), 近藤和彦(sax,fl), 池田篤(sax,fl), 三木俊雄(sax), 岡崎正典(sax,cl), 岩持芳宏(sax,cl), 中村健吾(bass), 高橋信之介(ds)

主催公演 19 土 17:00

Kawasaki Jazz 2016

プラチナ・ジャズ・オーケストラ presented by ラスマス・フェイバー

かわさきジャズ2016 スーパーセッション / アニメ・ソングの名曲たちをロマンティック&スウィートなヨーロッパ・ジャズで楽しむ至福の夕べ。

主催公演 20 日 17:00

Kawasaki Jazz 2016

グランド・フィナーレ 「ジャズ travels ワールド」

かわさきジャズ2016 スーパーセッション / 南米タンゴを出発点に、「トルコ行進曲」「A列車で行こう」を経て日本まで、古今東西ジャズで世界を巡る3時間、壮大なグランドフィナーレ!
第1部 タンゴ meets ジャズ バンドネオン:三浦一馬 ヴァイオリン:石田泰尚 コントラバス:黒木岩寿 エレキギター:大坪純平 ピアノ:BABBO
第2部 クラシック meets ジャズ ピアノ:ファジル・サイ
第3部 ジャズ meets ジャパン ピアノ:山下洋輔 ヴァイオリン:大谷康子 大鼓:大倉正之助(スペシャルゲスト)

主催公演 23 水祝 15:00

第7回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル2016

出演:桐朋学園大学(指揮:ジョシュア・タン)、昭和音楽大学(指揮:渡邊一正)
モーツァルト:ディヴェルティメント 二長調 K.136(桐朋) / バルトーク:管弦楽のための協奏曲(桐朋) / チャイコフスキー:交響曲第5番 短調 作品64(昭和)

主催公演 26 土 18:00

バイエルン放送交響楽団

指揮:マリス・ヤンソンス
ハイドン:交響曲第100番「軍隊」 / R.シュトラウス:アルプス交響曲

27 日 14:00

中央区交響楽団2016 冬のコンサート

指揮:佐藤雄一 ソプラノ:悦田比呂子
シベリウス:交響詩「春の歌」 / R.シュトラウス:四つの最後の歌 / ショスタコーヴィチ:交響曲第5番 二短調Op.47「革命」

お問合せ:中央区交響楽団 03-5560-2090

27 日 18:45

お茶の水管弦楽団 第99回 定期演奏会

指揮:今井治人
スメタナ:連作交響詩「我が祖国」より「ヴィシェフラド」 / ポロディン:交響曲第3番 / チャイコフスキー:交響曲第6番「悲愴」

お問合せ:お茶の水管弦楽団広報係 090-3337-4167





東海道 かわさき宿交流館

TOKAIDO KAWASAKI SHUKU KORYUKAN



「アートかわさき2016」

11月1日(火)～11月27日(日) 9時～17時

川崎にゆかりのある美術家と現代美術作品の展示の他、映像美術を軸にダンス・音楽・演劇のイベントを行います。

主催：アートかわさき実行委員会・東海道かわさき宿交流館

●期間中展示

「アートの宿場—川崎の美術館」

出展作家：薄井崇友、李容旭 他 料金：無料

会場：東海道かわさき宿交流館 3階企画展示室



画像は昨年11月に行われた展示風景です

●期間中イベント

「映像・ダンス・音楽」

日時：11月6日(日) 15時～ 料金：2,000円

出演：塩高和之(琵琶奏者・作曲家)、SOON KIM(アルトサクソ)、牧瀬 茜(ダンス)、ヒグマ春夫(映像)

会場：東海道かわさき宿交流館 4階集会室

「川崎市立田島中学校美術部によるクレヨンライブ」

日時：11月12日(土) 10時～12時

場所：東海道かわさき宿交流館 1階エレベーター前のガラスにドローイング(会期中展示)

「父をめぐる旅 異才の日本画家・中村正義の生涯

—ドキュメンタリー上映(102分)と対談—

日時：11月13日(日) 14時～16時30分 料金：無料

出演：宮田徹也、近藤正典(映画プロデューサー) 会場：東海道かわさき宿交流館 3階企画展示室

「映像・演劇 — Juliets, once upon a time? —」

日時：11月20日(日) 15時～ 料金：2,000円

出演：丹下 一、茅根利安、ヒグマ春夫(映像) 会場：東海道かわさき宿交流館 4階集会室

●問い合わせ：アートかわさき実行委員会 044-522-7288

なお、同期間 10時から16時の間に、川崎大師仲見世通りで「仲見世でアート2016」も開催しています。

「和菓子作りを楽しもう」

日時：11月5日(土) 13時30分～15時

定員：20名 料金：無料 予約：先着順(東海道かわさき宿交流館 044-280-7321)

会場：東海道かわさき宿交流館 4階集会室

街道シリーズ その11 「中原街道を行く」

日時：11月19日(土) 14時～

講師：拓殖信行(品川区立品川歴史館統括学芸員) 定員：80名 料金：無料

会場：東海道かわさき宿交流館 4階集会室

貸館案内 4階の集会室は、ふれあいネット(川崎市公共施設利用予約システム)にて利用予約が必要です。

〒210-0001 川崎市川崎区本町1丁目8番地4
TEL.044-280-7321 <http://www.kawasakishuku.jp/>

【アクセス】京急川崎駅より徒歩約6分、JR川崎駅東口より徒歩約10分



ミュージック・ワークショップ ～英国のホールやオーケストラが 取り組む教育プログラムの現在～



川崎市は4年後の東京オリンピック・パラリンピックで、英国のホストタウンになっています。両国の文化交流の推進と、文化プログラムの担い手を育成するため、英国で広く行われている音楽づくりを体験できるワークショップが開催されました。

音楽の経験がなくても、楽譜が読めなくても、誰もが主体的に曲作りや演奏を楽しむことを目的としたこのプログラム。英国でワークショップ・リーダーとして活躍する作曲家フレーザー・トレーナーさんによる指導で、参加者全員が舞台上で輪になり、リズムといくつかの音を組み合わせることで即興的にひとつの曲を作り上げていきました。

思い思いの楽器を手にした参加者たちは、短時間でみるみる美しい曲が出来上がっていく過程に驚きと感動を覚えていました。

【参加者の声より】

- 普段、音楽は聞くのみですが、参加する楽しみがあることがわかり、大変興味深かった。
- 音楽を教育や介護など色々なフィールドに取り入れることで、プラスの効果をもたらすだけでなく、音楽を身近なものに出来ると感じました。

(8月8日 ミューザ川崎シンフォニーホール)

第51回 ラゾーナ寄席

暑い8月、普段と少し趣を変えた「納涼寄席」をお楽しみいただきました。

前座 春風亭かん橋さんによる「初天神」でスタート。続いて、二つ目の桂翔丸さんが「ちりとてちん」を披露。知ったかぶりの若旦那が騙されて腐った豆腐を食べるまでの描写がおかしく、会場は大爆笑！仲入り後は、ラゾーナ寄席の世話人 桂米多朗師匠による、消費者トラブル啓発の新作落語「与太郎のオレオレ詐欺」。トリはお待ちかね、女流講談師 神田紫さんによる怪談噺「番町皿屋敷」。

神田さんの洗練された語り口、刻々

と暗くなってゆく照明や効果音も相まって、緊張感が高まります。客席がシーンと静まり返り、怖さもひとしおでした。

夏休み中ということもあってか、小学生のお子さまにもお越しいただき、帰りに「楽しかった！」と元気な感想を頂きました。



(8月16日 ラゾーナ川崎プラザソル)

かわさき平和美術展

毎年8月に開催されているかわさき平和美術展は、川崎市の「核兵器廃絶平和都市」宣言を機に発足し、今年で34周年を迎えました。

川崎に稽古場がある「人形劇団ひとみ座」の人形、子どもたちによる平和をテーマにした版画の合作や風景画や静物画など、66名による幅広い作品が訪れた人たちの目を楽しませていました。

初日には、展示スペースを使ってパフォーマンスが行われ、多くの観客が集まりました。

設立当初から代表を務める山川さんは、「市民の力と財産を集めた川崎らしい展覧会です。平和な今の時代に絵を楽しめること、日常的に絵を楽しむ人たちを大切にしています。若い人たちにも展示を観て、参加してもらいたいですね」と話してくれました。



(8月16日～21日 アートガーデンかわさき)

第108回 川崎市定期能

喜多流と大蔵流狂言山本家の能楽師をお迎えし、第108回 川崎市定期能を開催しました。第一部は狂言「佐渡狐」と能「六浦」、第二部は狂言「叔母ヶ酒」と能「通小町」を上演しました。能「通小町」では、小野小町に想いを寄せて百夜通いする深草少将の霊を、人間国宝である友枝昭世師が演じ圧巻の舞台で観客を魅了しました。

【お客様の声より】

- お能は人が舞っていると思えないくらい美しかったです。狂言はセリフの響きあいに関心していました。(40代女性)

- 神奈川県で今見る能はこれではないかと痛感しました。鬼の形相の狂言とあわせて、この世からなる地獄に凄みを感じました。(30代男性)

(8月6日 川崎能楽堂)



能「六浦」香川靖嗣
撮影：山口宏子

江戸時代の粋に遊ぶ

～紙切り～

江戸時代の粋に遊ぶシリーズ、今回は林家花さんによる「紙切り」でした。



女性の紙切り芸人は珍しいそうです。お得意の舞妓さんに三番叟、今話題の人物、お客さんのリクエストにも答えて下さいました。計7点。切りながらの喋りが面白い！見て聞いて楽しめるのが魅力ですね。

続いてトークショー。なぜ紙切りの世界へ行こうと思ったのか。そのきっかけは、花さんの実家近くに師匠である林家今丸さんが住んでいたからといます。紙切りの修業はひたすら練習とのこと。

最後に参加者全員で紙切りの体験をしました。ハート・リンゴ・タマゴ・ニワトリ・カメに挑戦。これがなかなか難しい。みなさん苦戦しながらも楽しんでいました。(8月27日 東海道かわさき宿交流館)

名曲全集 第120回

～ミューザ川崎シンフォニーホール&東京交響楽団～



撮影：藤本史昭

指揮者のロレンツォ・ヴィオッティは26歳の新鋭。東京交響楽団には急きょ降板したウルバンスキの代役で

2014年に登壇し、鮮烈なデビューを果たして以来2回目となりました。スラリとした長身に甘いマスクで指揮姿も端麗。快活なベートーヴェン4番の後は、「ばらの騎士」「ラ・ヴァルス」では東響の色彩をこれでもかと引き出し、お客様もうっとり……！ 帰り際にお客様から「今度はいつ来てくれるの？」というお声をいただくなど、今後の活躍が大いに楽しみな指揮者でした。

(9月4日 ミューザ川崎シンフォニーホール)

毎月 第三火曜日
のお楽しみ
2016 **ラゾーナ寄席**

11月15日(火) 17:30受付開始/18:00開場/18:30開演

※当日券は18:00から販売します

- 会 場…ラゾーナ川崎プラザソル
〒212-8576 川崎市幸区堀川町72-1 ラゾーナ川崎プラザ5F
- 出 演…初音家左橋・林家たけ平・鈴々舎馬るこ・林家たま平
- 入 場 料…全席自由2,000円(終演後のおたのしみ“交流会”…希望者のみ・参加費1,500円)
- 予 約・お 問 合 せ / ラゾーナ川崎プラザソル
電話 044-874-8501 FAX 044-520-9151
E-mail: info@plazasol.jp http://www.plazasol.jp



林家たけ平

能「竹生島」 撮影:山口宏子
(弁財天:角当行雄、龍神:会田昇)

能
竹生島
女体
梅若玄祥(観世流梅若会)

狂言
樋の酒
三宅右近(和泉流)

15時00分開場
15時30分開演

第二部

第一〇九回
川崎市定期能

能と狂言

能「巻絹」角当直隆
撮影:吉越研

能
巻絹
角当行雄(観世流梅若会)

狂言
呂蓮
三宅右近(和泉流)

12時30分開場
13時00分開演

第一部

◆平成28年12月10日(土)
◆会場:川崎能楽堂
◆入場料:各部4,000円
(全席指定) U25 3,000円
※脇正面・中正面エリアのみ選択可。
25歳以下の方。購入時に生年月日のわかる身分証明書をお持ちください。

◆チケット好評発売中 ◆チケット取扱・お問合わせ/川崎能楽堂 TEL.044-222-7995 川崎市川崎区日進町1-37
◆受付時間/窓口・電話 9:00~17:00 *但し初日のみ電話受付は正午から。窓口完売の際は電話での受付はいたしません。

定期能をより楽しむための事前講座 演目や能について出演能楽師が実演付きで分かりやすく解説します。

- ◆日時:11月19日(土)14時から ◆会場:川崎能楽堂 ◆講師:角当直隆(観世流・シテ方) ◆定員:148名(先着順) ◆料金:無料
- *但し、第109回川崎市定期能チケットご購入者が対象となります。 *受講をご希望の方には、チケットご購入の際に整理券(先着148名様)をお渡しいたします。

主催:(公財)川崎市文化財団 川崎市川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワー・リパーク3F TEL.044-222-8821/FAX.044-222-8817

*開演後はご入場いただけない場合がございます。また、出演者等変更になる場合がございますので予めご了承ください。なお、ご購入いただいたチケットのキャンセルや変更はできません。

川崎市市民ミュージアム〈中原区〉

企画展

旅する人びと

～東海道五十三次から世界へ～
開催中～11月20日(日)

観覧料:一般500円
65歳以上・大学生・高校生400円
中学生以下無料



岡本一平「世界一周図会」(昭和2年)

江戸時代から昭和初期にかけての旅の変遷を紹介します。当時の旅人が書き残した旅日記などから、昔の旅を追体験してみませんか?

アートギャラリー

観覧料:無料

開催中～12月11日(日)

竹宮恵子監修 原画(ダッシュ)展示シリーズ 青年マンガの世界

平田弘史・ながやす巧・村上もとか3名の原画を元にした原画(ダッシュ)と、竹宮恵子の原画(ダッシュ)のほか、『ガロ』や『COM』などの雑誌や貸本などの関連資料を展示します。

山岳写真展

旧五千元札・現千円札の図柄の元となった富士山の写真でも知られる岡田紅陽など、わが国の美しい山々を撮影した写真で日本の自然の素晴らしさを紹介します。



「黒富士 三ツ峠」1948年 岡田紅陽

ベスト・セレクション ー世界旅行に出かけよう

当館の収蔵品である、ロートレックやカッサンドラのポスター、ピゴアの漫画作品、濱田庄司の陶芸作品など代表的なコレクションを「世界旅行」という切り口で取り上げます。



アルフォンス・ミュシャ
《モナコ・モンテカルロ/P.L.M.鉄道》
1897年 三浦コレクション

博物館展示

観覧料:無料

川崎の考古・歴史・民俗について通史で展示

■「近代・現代」特集展示

「伝染病と地域政治」 開催中～11月18日(金)

コレラやチフスなど様々な伝染病が流行した明治時代の、川崎地域における被害や対応の様子を所蔵資料からふり返ります。

「川崎のくだもの」 11月19日(土)～2017年1月15日(日)

名産の梨を中心に、近現代の川崎のくだもの生産の様子について所蔵資料から振り返ります。

■マンスリー展示

「丸子の渡し」 10月29日(土)～11月25日(金)

昭和10年(1935)の丸子橋架橋まで中原街道には橋が無く、丸子の渡しで多摩川を渡りました。江戸時代の渡船場の経営や利用について展示します。

「徳川将軍菩提寺と川崎 ー増上寺領の村々ー」

11月26日(土)～12月28日(水)

ミュージアムギャラリー

■第4回 版画アトリエ一般開放 アトリエ指導員展 「そこにある場所」 11月26日(土)～12月11日(日)

版画アトリエ一般開放の指導員、米澤寛子の成果発表展です。身近なできごとや、感情、記憶をモチーフに、リトグラフ表現の可能性を探っています。

この他にも上映・講座・イベント情報をホームページにてご案内しています。

中原区等々力1-2(等々力緑地内) TEL. 754-4500 FAX. 754-4533
【アクセス】武蔵小杉駅北口バス約10分、溝の口駅ノクティ側バス約20分
【開館時間】9:30～17:00(入館16:30まで)
【休館日】毎週月曜日(祝日の場合は開館)、11/4(金)、24(木)
http://www.kawasaki-museum.jp/

●ホームページ、Twitter、Facebookにて情報発信中



ホームページ



Facebook



Twitter



川崎市岡本太郎美術館〈多摩区〉

常設展／開催中～2017年1月9日(月・祝)

「太郎の 眼玉ダンジョン」展

岡本太郎が年齢を重ねてなお、執拗に描き続けた1980年代の「眼玉」の作品を特集します。油彩作品と併せてドローイング等も紹介し、太郎の鬼気せまる「眼玉」の世界に迫ります!



《呼ぶ》1984年
油彩・キャンバス

企画展／2016年10月22日(土)～2017年1月9日(月・祝)

「つくることは生きること 震災《明日の神話》」展

地震によって引き起こされる多くの悲しみや苦しみの中で、創作や表現活動など、芸術やアートと呼ばれる活動は何ができるのか。

東日本大震災から5年を迎えた今年、東北の被災者や作家たちの作品、そして岡本太郎の代表作《明日の神話》を通してアートの可能性を問いかけます。



岩手県大船渡

2016年10月22日(土)～2017年1月9日(月・祝)まで
一般900(720)円、高・大学生・65歳以上700(560)円、中学生以下無料
*カッコ内は20名以上の団体料金

【つくることは生きること 震災《明日の神話》展・関連イベント情報】

◆大久保倫伊『槌音』、『つるち』

大久保倫伊監督が、震災の被災地である故郷の岩手県大槌町を記録したドキュメンタリー他を上映します。

日時:会期中の毎日 9:30～17:00 (他のイベントの開催時間帯を除く)
会場:企画展示室 料金:展覧会観覧料のみ

◆岩井俊二『friends after 3.11【劇場版】』特別上映

岩井俊二監督が、震災以降に出会った人々、そして久しぶりに再会した友人と語る、東日本大震災に続いた福島第一原発事故後の「日本の未来」を綴ったドキュメンタリーを上映します。

日時:10月30日(日)、11月6日(日)、20日(日)、12月4日(日)、24日(土)、1月8日(日) 各日14:30～16:45

会場:企画展示室 料金:展覧会観覧料のみ

◆大久保倫伊『ちかくてとおい』特別上映

日時:11月27日(日)、12月17日(土) 各日15:00～16:00

会場:企画展示室 料金:展覧会観覧料のみ

◆「つくることは生きること」トークイベント

東北で被災した出品作家に当時の状況とその後の作品制作についてお聞きします。

日時:11月12日(土) 14:00～16:00(開場13:30)

出演:安藤榮作(彫刻家)、片平 仁(アーティスト)、三瀬夏之介(東北芸術工科大学教授)

ゲスト:高橋雅子(ARTS for HOPE代表)

会場:企画展示室 料金:展覧会観覧料のみ

◆Miwako trio/かわさきジャズ2016

& Shimvaライブ

東北の被災地での音楽活動を精力的に行うアーティストによるライブイベント。

日時:11月19日(土)
14:00～16:00(開場13:30)

会場:企画展示室

料金:展覧会観覧料のみ

第1部 Miwako trio/かわさきジャズ2016 14:00～

出演:Miwako trio

第2部 Shimvaライブ 15:00～

出演:Shimva(福島在住のシンガーソングライター)



Shimva

【イベント情報】

◆茶会「遊喜庵」

日時:11月3日(木・祝) 13:00～16:00 人数:150名(当日参加)

料金:1人300円(抹茶・お菓子代) 講師:裏千家流正教授・岩沢宗知

多摩区枳形7-1-5 TEL.900-9898 FAX.900-9966
【アクセス】小田急線向ヶ丘遊園駅南口徒歩17分、北口バス約10分
専修大学前下車徒歩6分
【開館時間】9:30～17:00(入館締切16:30)
【休館日】毎週月曜日(祝日の場合は開館)、11/4(金)、24(木)
http://www.taromuseum.jp

●ホームページ、Facebookにて情報発信中



ホームページ



Facebook





しんゆりジャズスクエアvol.26

深まる秋、シャンソン・カンツォーネ・ラテンの名曲をジャズの香りにのせて…

〈予定曲〉枯葉、ケ・セラ・セラ、愛の賛歌、オーソレ・ミオ など

2016年11月25日(金) 19:00開演 ※開場は開演の30分前

【出演者】名知玲美(Vo)、右近 茂(T.sax)、浅川太平(Pf)、田辺充邦(G)、佐瀬 正(Bs)

【チケット】一般 3,500円(全席自由・税込)

★サポーターズチケット★

「しんゆりジャズスクエア」をもっと大勢の方に楽しんで頂きたいと、セット券をご用意しました!ご家族や、ご友人と一緒にぜひお越しください!

●2枚セット券 6,000円 ●4枚セット券 10,000円

※WEBでのお取り扱いはございません。



名知玲美



右近 茂



浅川太平



田辺充邦



佐瀬 正

第46回川崎市アートセンター

しんゆり寄席

2016年11月26日(土) 14:00開演 ※開場は開演の30分前

【出演者】古今亭寿輔、桂米多朗、三遊亭遊里、桂伸力

【チケット】一般 2,000円 / 学生 1,000円(全席自由・税込)

★大旦那衆チケット、プレミアムチケット★

年間10回の開催を予定している「しんゆり寄席」で、いつでもご利用頂けるセット券をご用意しました。お一人で毎月通うことも、ご友人と一緒にでも、ご自由にお使い頂けます。

●大旦那衆チケット:10枚1組 12,000円 ●プレミアムチケット:4枚1組 6,000円

※有効期限は2017年3月公演までとなります。払い戻しは致しません。※WEBでのお取り扱いはありません。



古今亭寿輔



桂米多朗

〈2016年度の予定〉12/17(土)、1/28(土)、2/25(土)、3/25(土)

【お知らせ】仲入りでは演者からのプレゼントが当たる抽選会を開催。何が当たるかは参加してのお楽しみ!

貸館のご案内

アルテリオ小劇場では施設の貸出を行っております。演劇やミュージカル、コンサート、ダンス、発表会、セミナーなど様々な形態でご利用頂くことが可能です。基本形式193席の客席を有し、3室可動間仕切りの楽屋や工房(舞台の道具作成や楽屋代わりとしてもご利用可)もごございます。詳細はWEBまたは川崎市アートセンターまでお問い合わせください。

お問合せ:川崎市アートセンター TEL.044-955-0107 <http://kawasaki-ac.jp>

チケット取扱い:川崎市アートセンター

[窓口] 9:00~19:30(原則毎月第二月曜除く) [WEB] <http://kawasaki-ac.jp/th/>

[電話] 044-959-2255(9:00~19:30、土日祝・原則毎月第二月曜除く)

※ジャズスクエアの電話予約はマイタウンチケットセンターでのみお取り扱いしております。044-954-9990(月~金、10:00~18:00)

※学生チケットは窓口でのみ取扱い。要学生証提示。※しんゆり寄席は未就学児のご入場はご遠慮下さい。

★お問合せ:川崎市アートセンター 044-955-0107 <http://kawasaki-ac.jp>

川崎市アートセンター アルテリオ映像館



©2016「湯を沸かすほどの熱い愛」製作委員会

湯を沸かすほどの熱い愛

2016年/日本/カラー/2h05
脚本・監督：中野量太

出演：宮沢りえ
杉咲花、篠原ゆき子、駿河太郎
伊東蒼/松坂桃李/オダギリジョー

主題歌：きのこ帝国「愛のゆくえ」
配給：クロックワークス

10/29 [土] ▶ 11/6 [日]

上映再開11/15 [火] ~

余命2か月を宣告された母が、娘のため、そして自分のために起こす行動が驚きと感動を呼ぶ、豪華キャストの家族の絆の物語。『チチを撮りに』の中野量太監督の商業映画デビュー作で、全篇にみなぎる情感とユーモアに、すでに今年度屈指の傑作との呼び声も高い作品。

宮沢りえ主演『湯を沸かすほどの熱い愛』
日本映画学校（現：日本映画大学）出身の新進気鋭監督
中野量太による最新作！

interview 中野量太監督インタビュー

監督自身の手によるオリジナル脚本ですが、本作の着想のきっかけは？
「銭湯」が舞台ということは着想の時からあったのでしょうか？

実は16年前に、日本映画学校（現：日本映画大学）の卒業制作で、僕が初めて撮った映画の舞台が銭湯でした。その当時から、家族経営で湯を沸かす営みや他人同士が一緒に湯船に入り共に癒される感覚、富士山のペンキ画や薪を燃やす大きな炉など、心惹かれるものを感じていました。家族愛や人の繋がりをテーマにしている僕にとって、銭湯は最適な舞台だったのかもしれませんが。

今回、商業映画デビューにあたり、海外でも通用する日本らしい映画を撮りたい、同時に最も僕らしい映画を撮りたいと思った時、もう一度初心に戻って銭湯を舞台にした家族の物語を書こうと決めました。

あと、銭湯を舞台にしたもうひとつの着想は、映画をご覧いただくと分かるかと思います。

グッバイ、サマー

2015年/フランス/カラー/1h44/DCP
監督・脚本：ミシェル・ゴンドリー
出演：アンジュ・ダルジャン、
テオフィル・バケ、オドレイ・トトゥ

10/22 [土] ▶ 11/6 [日]



© Partizan Films-StudioCanal 2015

14歳。子供でもない、大人でもない狭間の時期。画家を目指すダニエルと周囲から浮いた存在の転校生ダニエルは息苦しくて、うんざりするような毎日から脱出するため、“ある計画”を考え付く。それは、スクラップを集めて“夢の車”を作り、夏休みに旅に出ることだった。キュートで甘酸っぱい青春ロードムービー！

歌声にのった少年

2015年/パレスチナ/カラー/1h38
監督・脚本：ハニ・アブ・アサド
出演：タウフィーク・バルホーム、ナディーン・ラバキ、ムハンマド・アッサーフ

11/15 [火] ▶ 11/25 [金]



© 2015 Idol Film Production Ltd/ABC FZ LLC /KeyFilm/September Film

紛争の絶えないパレスチナ・ガザ地区に暮らす少年が困難な状況の中、“歌手になる夢”を叶えてゆく姿を描いた実話に基づく感動の物語。監督は『パラダイス・ナウ』『オマールの壁』でアカデミー賞外国語映画賞にノミネートされたハニ・アブ・アサド。リアリティを追求するため、前代未聞のガザでのロケ撮影も敢行した。

オーバー・フェンス

2016年/日本/カラー/1h52
監督：山下敦弘
原作：佐藤泰志
出演：オダギリジョー、蒼井優、松田翔太

11/19 [土] ▶ 12/2 [金]



©2016「オーバー・フェンス」製作委員会

家庭をかえりみず、妻に見限られ、東京から故郷の函館に戻るも実家には顔を出さず、職業訓練校に通いながら失業保険で暮らす主人公はある日風変りなホステスと出会う。純粋で不器用な大人の恋愛模様を描く。孤高の作家、佐藤泰志の原作をオダギリジョー、蒼井優、松田翔太ら豪華キャストで映画化。

男と女

《製作50周年記念 デジタル・リマスター版》
十編編映画『ランデヴー』デジタル・リマスター版

1966年/フランス/カラー/1h44
監督：クロード・ルルーシュ
音楽：フランシス・レイ
主演：アヌーク・エーム、
ジャン＝ルイ・トランティニャン

11/26 [土] ▶ 12/16 [金]



©1966 Le Films 13

♪ダバダバダ〜♪の美しいメロディで知られるクロード・ルルーシュ監督の恋愛映画の金字塔が50年の時を超え、デジタルリマスター版の鮮やかな映像でよみがえる。いまだ過去を忘れられないふたりの大人の切ない恋を描く。ルルーシュ監督が1976年に撮った幻の短編『ランデヴー』も同時上映。

シーモアさんと、
大人のための人生入門

2014年/アメリカ/カラー/1h21
監督：イーサン・ホーク
出演：シーモア・パースタイン、イーサン・ホーク、マイケル・キンメルマン

10/29 [土] ▶ 11/6 [日]

▶ 上映再開 11/15[火]〜

50歳でコンサート・ピアニストを引退し、以後ピアノ教師として後進を育て、その教本は日本でも出版されているシーモア・パースタイン。音楽と人生の奥義を、穏やかな佇まいで語る姿に魅了された俳優のイーサン・ホークが、自ら監督した音楽ドキュメンタリー。



©2015 Risk Love LLC

ベストセラー

編集者パーキンズに捧ぐ
2015年/イギリス/カラー/1h44
監督：マイケル・グランデージ
主演：コリン・ファース、ジュード・ロウ、
ニコール・キッドマン、ガイ・ピアース

11/19 [土] ▶ 12/2 [金]



©Genius Film Productions Limited 2015

アーネスト・ヘミングウェイやスコット・F・フィッツジェラルドを全くの無名時代に発掘し、アメリカ文学史に残る名作を数多く手がけたカリスマ編集者マックス・パーキンズと彼が惚れ込んだ若き天才作家トマス・ウルフの友情の絆を描いた実話の映画化。ふたりの名俳優コリン・ファースとジュード・ロウの初共演作。

人間の値打ち

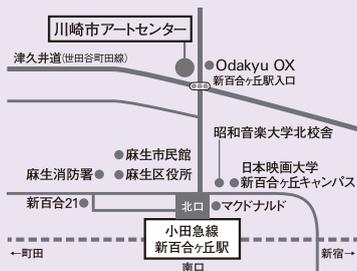
2013年/イタリア/カラー/1h49
監督・脚本：パオロ・ビルツィ
出演：ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ、
ファブリツィオ・ベンティボリオ

11/26 [土] ▶ 12/9 [金]



©2013 Indiana Production Company Srl / Manny Films

クリスマスイブに起こった一件のひき逃げ事故をきっかけに3つの家庭に隠されたそれぞれの秘密、思惑、そして欲望が紐解かれてゆく。北イタリア・湖水地方にそびえ立つ美しい邸宅を舞台に、緻密な構成とスリリングな展開で人々の欲望を暴く傑作ラグジュアリー・サスペンス。



川崎市アートセンター

〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺6-7-1
Tel. 044-955-0107 Fax. 044-959-2200
info@kawasakiac.jp http://kawasakiac.jp/

小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分

●映画のチケットは9:00より受付にて販売

●自由席、整理番号順入場、立見不可



シネマと談志と永六輔 ～シネマ落語とトークライブ～



松元ヒロ

スタンダップトーク

◎シネマ落語とは……?!

とりあげる作品は洋画。時代設定を落語の時代、つまり江戸、明治、大正、昭和初期に変更。登場人物はすべて落語国の人。八っつあんにご隠居さん、与太郎、権助、幫間の一八などなど。そしてエンディングに落語的な落ちをつける。立川志らく著「雨の中の、らくだ」より(新潮文庫)

◎今回のシネマ落語の題材

『天国から来たチャンピオン』
ウォーレン・ビーティの監督主演作品。
天使のミスで、まだ寿命があるのに事故で天国に召されてしまった男が、別人の肉体を借りて現世に戻ってくると…。

- 主催 公益財団法人 川崎市文化財団、NPO 法人 KAWASAKI アーツ(KAWASAKI しんゆり映画祭)
- 後援 NPO 法人 しんゆり・芸術のまちづくり
- お問合せ 新百合トウェンティワンホール TEL.044-952-5000

新宿紀伊國屋ホールで人気のふたりが新百合ヶ丘にやってくる!



立川志らく

シネマ落語

「たまや」～天国から来たチャンピオンより～

開催日 **2016.11.12 (土)**

14:00 開演【13:30 開場】

会場 **新百合トウェンティワンホール**

(川崎市麻生区万福寺 1-2-2 新百合 21 地下 2F)
小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩 2 分

入場料 **前売 3000 円 / 当日 3500 円**

定員 **400 名【全席指定】**

※未就学児の入場はご遠慮願います。